（様式 3）

令和5年度佐賀大学戦略的PSプロジェクト報告書

令和　6 年 3 月　2 8 日

国際交流推進センター長　殿

申　請　者（代表申請者）
部　局　名　全学教育機構
職　　名　全学教育機構長
氏　　名　鯉川　雅之

下記のとおり報告します。

1．大学間交流協定校 （国・地域）	温州大学 （中国・浙江省温州市）		
2．種別	Ⓐ国際共同研究型　　B国際共同教育型		
3．実施代表者	原口智和	4．所属・職名	全学教育機構 ・准教授
5．連携部局	農学部		
6．国際共同（教育）研究課題	低平地水路網地帯及び沿岸干潟における生態環境修復技術の開発		
7．令和５年度の実施内容	●令和5年11月21日～11月25日　実施代表者と学生2名（農学研究科、農学部）が温州大学を訪問 　生命環境科学学院長との懇談（本プロジェクトへの協力依頼）、国際部長との懇談（学生交流について）、研究施設見学（総合分析センター、生命環境科学学院動物標本展示室、三垰湿地生態環境研究院）、研究打合せ（三垰湿地現地確認）を行った ●令和5年12月13日　佐賀大学メンバー打合せ 　11月の温州大学訪問で得られた情報及び12月の中報告会での委員からの意見を踏まえ、実施代表者、近藤教授（農学部）、郡山准教授（農学部）の3名が、国際共同研究の内容、方法、実施体制等について確認した ●令和6年1月23日　実施代表者が温州大学教員（郝教授、井芹教授）と打合せ（於福岡市）		

	令和6年3月受入時の行程、及び交換留学生（令和6年4月～）の佐賀大学での研究内容等について確認した ●令和6年3月2日～3月10日　温州大学より教員2名（郝教授、井芹教授）、学生6名（生命環境科学学院修士課程）が訪日 ○3月3日　学生のための環境教育①（「可燃ごみの収集・処理と３R」、於福岡市臨海３Rステーション、実施代表者が引率） 温州大学の学生が福岡市と温州市（中国）との違いを意識しながら可燃ごみの収集と処理、施設管理の仕方を学び、その後、古紙リサイクル体験として手すきによるハガキづくりを行った ○3月4日午前　研究集会（農学部3番教室） テーマ：「温州市の自然環境」と「温州大学の研究環境」 ～三垰湿地生態環境研究を中心に～ 佐賀大学参加者：実施代表者、近藤教授（農）、郡山准教授（農）、出村准教授（リージョナル・イノベーションセンター）、大学院生（Zhang ShiQi、Nampunda Junior Jose Mateus） 温州大学の大学院生による研究発表・質疑、及び井芹教授（温州大学）による研究対象フィールド（河川、湿地、干潟）と研究環境の説明のあと、今後の温州大学における調査や実験について意見交換を行った ○3月4日午後　学生のための環境教育②（「焼却施設から排出される二酸化炭素回収と利用」、於佐賀市清掃工場、実施代表者が引率） 温州大学の学生と佐賀大学の留学生が、「バイオマス産業都市さが」について座学を受けた後、二酸化炭素分離回収設備等の施設見学を行った ○3月6日～8日　日本水環境学会参加（於九州大学伊都キャンパス） 温州大学と佐賀大学の学生が研究発表を行い、研究者（実施代表者、郝教授、井芹教授）は他機関の研究者を含めた研究打合せを行

	った ◎佐賀大学メンバーの研究活動 ○実施代表者（原口准教授） ・低平地水路網地帯の水・物質動態モデルの構築に必要な気象データの収集・整理と水面蒸発量の算定 ・佐賀平野クリークにおける小型魚類生息と生態環境の調査と解析 ・北部九州の流域水質負荷の動態や時間変動に係る調査と解析 ○近藤教授 ・佐賀平野クリークの底泥改良土の地盤工学特性に及ぼす養生条件の影響を明らかにするための実験と解析 ○郡山准教授 ・有明海泥干潟における底生生物の綱組成と底質硬度との関連性を明らかにするための調査と解析 ・有明海泥干潟における底生珪藻類の現存量及び光合成活性と環境因子との関係についての調査と定量的評価
8.参加者数 ※参加者名簿（別添）を添付	参加者数　24　名 内、教員・研究者数　3　名、学生数　21　名
9. 事業を通じて得られた成果及び今後の計画 ※事業実施の様子について、写真を１～２枚程度提供ください	【成果】 ・令和5年11月に温州大学を訪問した際、三垟湿地で現地確認したことで、佐賀平野のクリークとの違いやシミュレーションモデルに組込むべき項目（壁面浸食に伴う濁度の変化）を明らかにできた 三垟湿地における現地確認の様子 ・令和6年3月4日に実施した研究集会において、有明海及び温州市沿岸の干潟における生態と環境に関する詳細な情報（干潟の特徴、測定

	可能な項目など）を温州大学と佐賀大学のメンバー間で共有することができ、令和6年度に『干潟生態環境』に関する国際共同研究を開始することを決定した 研究集会での研究発表と意見交換の様子 ・両校の学生が相互に訪問したことで学生交流がより深まり、また、佐賀大学の学生の研究への取り組み姿勢が向上した
	【令和６年度】 ・R6.4月～R7.3月：実施代表者は水路網生態環境研究のデータ（水温、pH、溶存酸素濃度、クロロフィルa濃度、栄養塩濃度、植物プランクトン濃度など）の収集・解析を行い、温州大学郝教授グループは水環境改善及び陸域ブルーカーボン創出に係る実験を行う ・R6.4月～R7.3月：共同研究者（近藤・郡山）は個別の共同研究の実施について交流協定校教員と協議し、共同研究に係る調査等を実施する ・R6.4月～R6.8月：実施代表者は温州大学より修士課程学生（Mao Jing）をSPACE留学生として受け入れ、藻類増殖のモデル化について指導する（藻類培養実験では出村准教授の支援を受ける） ・R6.8月（予定）　実施代表者が温州大学を訪問し、三垰湿地の調査と研究打合せ（進捗状況確認、外部資金申請等）を行う ・R6.９月（予定）　佐賀大学グループが温州大学を訪問し、干潟の調査と研究打合せを行う ・R6.10月～R6.12月：国際共同研究加速基金（海外連携研究）等への申請に向けて、国際共同研究計画について意見交換を行う ・R7.2月または3月：グループ全体の研究発表会を開催し、学生も参加させる ・本学低平地研究メンバーとの意見交換を随時行う

	【令和７年度以降】 ・R7.4月～R8.3月：実施代表者と共同研究者は国際共同研究に係る調査等を実施する ・R7.4月～9月：実施代表者は水路網生態環境研究の研究成果を査読付き国際論文に投稿する ・R7.8月：グループ全体での国際共同研究を二国間交流事業に申請する（予定） ・R8.2月または3月：グループ全体の研究発表会を開催し、学生も参加させる 令和8年度以降も引き続き国際共同研究及び学生交流を継続する
10. 支出額	金　額　　７１０，５７７　円 （内訳） 謝金　　0　円 旅費　　３９６，９５２　円 消耗品費　　２００，０００　円 雑役務費　　１１３，６２５　円
11. 他の外部資金等への申請状況	実施代表者は令和6年度　日本学術振興会二国間交流事業に申請したが、相手機関からの申請がなかったため、審査対象外となった。 コンタクトパーソンの郝教授に事情を確認したところ、申請書を作成したものの、提出の段階で「（温州大学または中国の制度上の理由で）申請資格がないため申請できなかった」ことが判明した。

12. 実施者アンケート

本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：5
支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：5
次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する
そのほかコメント：
令和５年度は２次募集での採択であったため、実施期間が短く、十分な研究は行えなかったが、新しい分野（干潟生態環境）での国際共同研究組織を構築することができた。